

新卒ナース 卒後1年目 年間教育スケジュール

		4月～6月	7月～9月	10月～12月	1月～3月
目標	午前	外来・病棟での看護技術の習得 9:00～13:00 5月から医師の診断を見て学ぶ		週に1回 外来病棟	訪問看護同行 緊急時夜間当番同行 (月に1回～3回) 看護技術の再チェック
	午後	14:00～18:00	病院との連携・地域連携室との連携を経験(MSW) 訪問看護同行訪問		
訪問看護		受持 1～3名 同行訪問	受持 2～5名 同行訪問	受持 3～7名	受持 5～10名
看護計画		1人	1人	1人	1人
学習・計画		看護倫理 接遇研修 医療技術演習研修	訪問看護制度・書類研修 認知症看護研修(病態の理解) 認知症看護研修	認知症看護研修(家族支援) 訪問看護研修(ターミナルケア)	事業所内研修 訪問看護研修(コミュニケーション・交渉力・看護技術再チェック)
研修		外部接遇研修	eランニング活用 訪問看護養成研修(11月まで)		

1年目

- ・訪問方法（同行➡単独）
- ・医療法人明輝会の社会資源を伝える
- ・利用者：状態の安定した者
（小児・精神疾患・看取り以外）
- ＜支援を受けて24時間対応＞
- ・単独訪問件数：30件／月

2年目

- ・訪問方法
- ・利用者：1年目の利用者に小児・精神疾患。医療依存度の者を加える
精神疾患の者を加える。
- ＜24時間単独訪問開始＞
- ・単独訪問件数：65件／月

3年目

- ・訪問方法
（単独・同行（看取り））
- ・利用者：2年目の利用者に看取りの
者を加える
- ＜24時間単独訪問＞
- ・単独訪問件数：65件／月以上

※新人訪問看護師については、看護師経験を考慮する。

表2 年次別新卒等訪問看護師育成過程

		1年目	2年目		3年目		
			前期	後期			
一般目標		単独訪問ができる (支援を受けながら24時間対応ができる)	24時間単独訪問		24時間単独訪問		
指標	利用者背景	小児・精神疾患及び看取り以外	小児疾患領域	精神疾患領域	看取り	制限なし	
	訪問方法(同行・単独)	同行訪問→単独訪問	同行訪問→単独訪問		同行訪問→単独訪問		
	(学習プロセス)	知識の習得→演習→実践(同行→単独訪問)→評価					
	訪問件数(担当利用者数・受持ち利用者数)	担当:7人 受持ち:1人 単独訪問件数:30件/月	担当:10人 受持ち:2人以上 単独訪問件数:50件/月	担当:10人 受持ち:2人以上 単独訪問件数:65件/月	担当制限無 受持ち:5人以上 単独訪問件数65件/月以上		
	習得技術(訪問看護基礎技術レベル*2)	レベル2に加えて、小児・精神疾患等各領域ごとの専門技術				小児は市立病院と今給黎 で実習をさせる	
	緊急対応	支援を受けながら夜間の緊急時の対応ができる	医療センター・病棟と 救急外来を3日間	緊急時の対応ができる			
到達目標	在宅看護過程	利用者状況情報収集・問題抽出・看護計画立案	①1人で看護計画を立案できる ②支援を受けながら夜間緊急時の対応計画を立案できる	利用者の個別性を踏まえた看護計画を立案できる	潜在的・予測的問題を踏まえた看護計画を立案できる		
		訪問記録	①訪問記録を記載できる ②受け持ちの患者のケースカンファレンス(内部)で司会ができる	小児・精神疾患領域利用者の訪問記録を記載できる	看取りの利用者の訪問記録を記載できる		
		評価	訪問後の評価・修正ができる	小児・精神疾患領域利用者の訪問後の評価・修正ができる	看取りの利用者の訪問後の評価・修正ができる		
	ミ ニ ム ム シ ョ	基本姿勢・シ	接遇・人間関係	状況に応じた接遇対応ができる	状況・対象の状態に応じた接遇対応ができる		
		教育指導	利用者・家族の状況・個別性を踏まえた教育指導ができる	小児・精神疾患領域利用者及びその家族を理解し、適切な助言・教育指導ができる	看取りの利用者・家族を理解し、適切な助言・教育指導ができる		
		多職種連携	支援を受けながら関係機関に適切な報告・連絡・相談ができる	支援を受けながら連携会議を調整できる			
	組 織 的 ・ 面 管 理 的 側	目標管理	自己の目標管理ができる	自己のキャリアデザインを考えることができる	自己のキャリアデザインを描くことができる		
		時間管理	効率的な時間管理を考えて行動ができる				
		物品管理(材料、備品など)	ステーションで管理する物品の取り扱いができる	ステーションで管理する物品の管理ができる	効率的な物品管理ができる		
		危機管理(安全、感染、暴言暴力、災害など)	マニュアルに沿った行動ができる	支援を受けながら臨機応変な対応ができる	臨機応変な対応ができる		
	倫理的側面		支援を受けながら倫理的な問題に対応できる	①倫理の原則に基づいて倫理的な問題に対応できる ②意思決定支援について考えることができる	①意思決定支援ができる ②倫理的問題に対応できる		
	学習 研修		大学・病院・老健施設	小児病棟・重症心身障害 児施設	精神病院	先進的訪問看護ステーション	

(第1版 表2を一部改変) ※ 新人訪問看護師については、看護師経験を踏まえて個別に時期を設定する。

注1 訪問看護基礎技術は訪問看護基礎技術チェック表(表5)参照 p.9 注2 老健施設とは介護老人保健施設をいう。